大阪府・大阪市　ライフサイエンス分野における地域産業クラスター計画の概要

様式１－２

１．産業領域

○再生医療等製品及び医薬品等を中心とするライフサイエンス産業領域

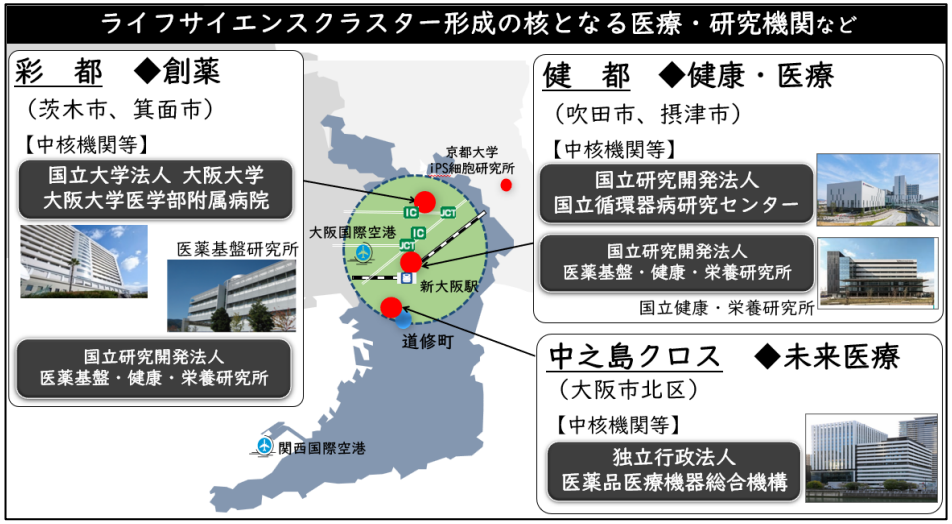
２．対象エリア

(1)特にクラスター形成の核となる区域

- 中之島クロス　：大阪市
- 彩都（国際文化公園都市）　：茨木市、箕面市
- 健都（北大阪健康医療都市）　：吹田市、摂津市

(2)計画推進の核となる企業

- 拠点区域に立地するライフサイエンス関連企業等
- 拠点形成推進法人（一財 未来医療推進機構、バイオ・サイト・キャピタル㈱、一社 健都共創推進機構）



３．目指す姿（目標）

⑴ 現状

- 大阪は、古くから「くすりの町」として発展し、現在もライフサイエンス関連の優れた大学、研究機関、医療機関や大手製薬企業等が近接して立地。
- 中之島クロス（再生医療等）、健都（健康・医療）、彩都（創薬）の特色ある３拠点を形成し、有望なスタートアップ・ベンチャー企業を集積。再生医療をはじめとした最先端技術を創出するポテンシャルを有する。
- 万博を契機として国際的なプレゼンスが向上するとともに、海外クラスター等とのMOU締結により、国際ネットワークの基盤を確立。
- 本府の成長戦略である「Beyond EXPO 2025」において、ライフサイエンス分野を成長産業の一つとして位置づけ。

⑵ めざすべき目標

- ３拠点を核とした世界をリードするライフサイエンスクラスターの形成と各拠点の強みを基盤としたエコシステムの構築

<KGI>

- 付加価値増加額：2031年までに182億円
- 官民設備投資額：2031年までの累計で303億円
- 産業人材育成数：2031年までの累計で300人

４．勝ち筋

⑴基本戦略

➢ ３拠点の強みを基盤としたエコシステムの構築をはじめ、有望なスタートアップの育成や万博を契機に高まった国際的プレゼンスとネットワークを活かした海外展開支援の強化などにより、新技術・製品の社会実装を加速させるとともに、拡大する海外市場の獲得を視野に新たなイノベーションの創出を図る。

⑵投資の具体像

今後５年間で総額303億円（官５億円、民298億円）
官：研究開発・設備補助、最先端技術の実装化支援 等
民：iPS製造装置、自動製造装置の増設、AIロボット装置
　　スタートアップ支援施設整備 等

⑶地域へのインパクト、目指すべき姿

- 企業と研究機関等の連携によるオープンイノベーションの促進により、最先端技術・製品を創出する環境が整備される。
- 国内外から投資資金を呼び込むことで、スタートアップや関連企業が成長する。
- 新たな領域の専門人材の輩出、地域の雇用が促進されるとともに、地域内外の他産業への波及効果を生み出し、地域経済の活性化に資する。

５．政策手段

投資促進に向けた課題と講じるべき政策パッケージ

➢ 中之島クロスにおける再生医療をはじめとする未来医療の産業化に向けたエコシステムの構築

- 有望なシーズの発掘から事業化、資金調達やサプライチェーン構築による事業成長、さらにCDMO機能の強化（製造プロセス、人材育成支援等）や医療機関ネットワークの整備等を実施

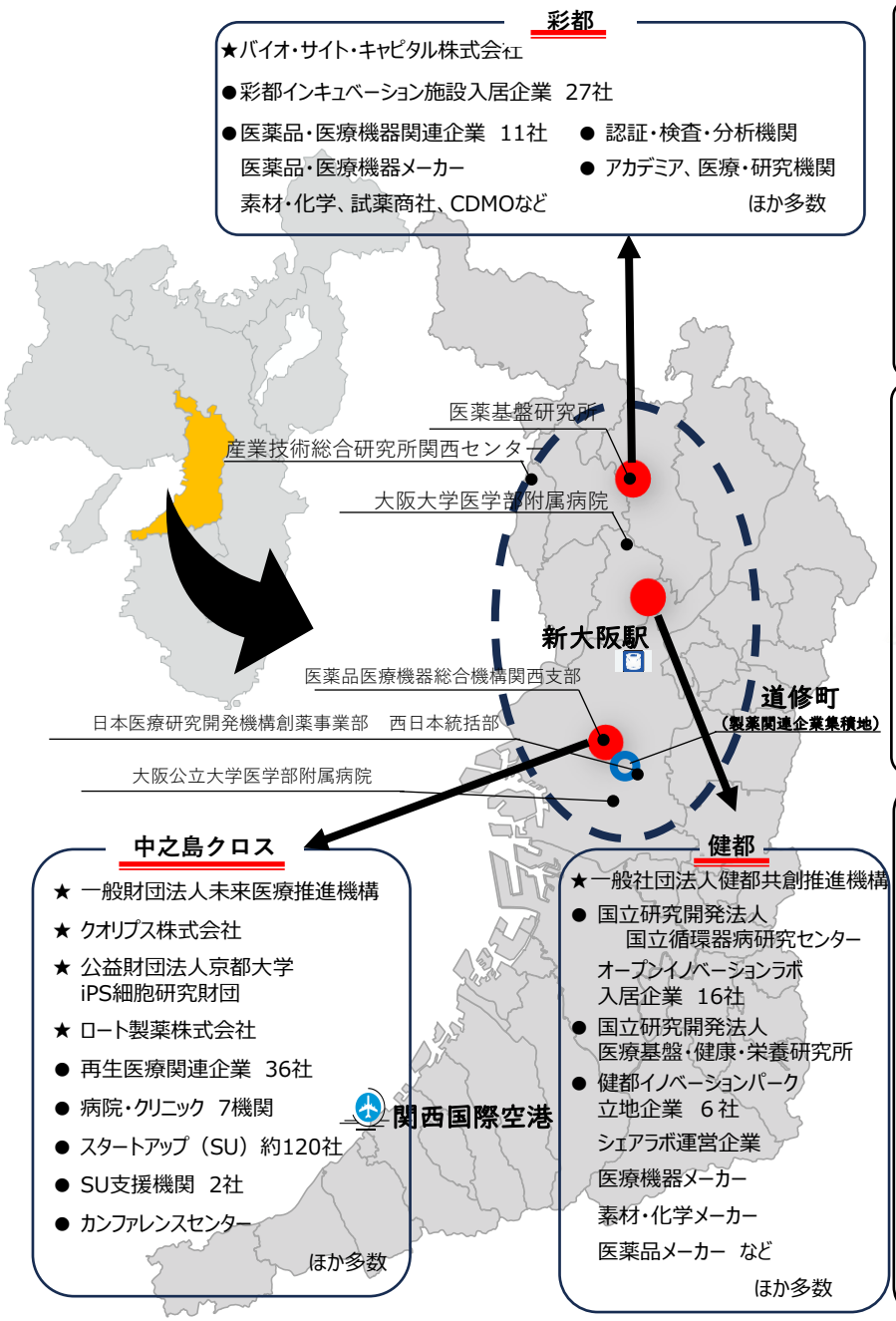
➢ 健都・彩都における健康・医療・創薬関連のイノベーション創出

- インキュベーション施設における研究開発支援の充実・強化や周辺地域からのアクセス向上のための彩都内のインフラ整備
- 健都における社会実装の促進やヘルスケア産業の活性化のため、住民参加型実証事業への支援、企業等の健康・医療データの利活用に向けた環境整備及び健都内のインフラ整備

➢ ３拠点の連携によるポテンシャルの国内外への発信や企業等の海外展開及び万博レガシーの継承

- 世界から注目される拠点として、万博レガシーである国際見本市「WHX　Osaka」や「Global Startup EXPO」等での発信や有望なスタートアップ等への国内外のVC等からの投資促進、海外ビジネス展開等支援の展開
- 万博において披露された新技術の情報発信等を行うための万博跡地の開発やPHR及びスマートヘルスアプリ等を活用した取組の促進

大阪府・大阪市　ライフサイエンス分野における地域産業クラスター計画の概要



彩　都（茨木市、箕面市）

【核となる企業】バイオ・サイト・キャピタル株式会社


彩都バイオインキュベータ


共有実験設備

健　都　（吹田市、摂津市）

【核となる企業】一般社団法人 健都共創推進機構


健都全体図

中之島クロス（大阪市）

【核となる企業】
一般財団法人未来医療推進機構、クオリプス株式会社、
公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団、ロート製薬株式会社


VMaCS(細胞安定供給バリューチェーンコンソーシアム)パイロットプラント


中之島クロス